

海外出張報告

渡航者：構造研究領域 材料研究チーム 山路徹，審良善和

出張期間：平成 23 年 12 月 11 日～16 日

場所：バングラデシュ・ダッカ (University of Asia Pacific *)

* Tarek Uddin Mohhamed 教授 (元材料研究室 研究官) が在籍

目的：セミナー出席および現地見学

行程：

12/11 移動 (羽田→ダッカ)

12/12 移動 (羽田→ダッカ)，University of Asia Pacific (UAP)訪問

12/13 セメント工場見学

12/14 セミナー出席および発表

12/15 移動 (ダッカ→成田)

12/16 移動 (ダッカ→成田)

12 月 14 日に開催された「2nd UAP/SEL Seminar on Recycling of Demolished Concrete (第 2 回 廃コンクリートのリサイクルに関するセミナー)」への出席および講演のためにバングラデシュ・ダッカに出張した。セミナーの講演内容は，山路 TL が再生コンクリートの長期強度特性および海水によるコンクリートの劣化を中心に講演し，審良が再生コンクリートの塩化物イオン浸透特性について報告した。多くの聴講者が参加され，コンクリートのリサイクルへの関心の大きさを実感した。バングラデシュは，デルタ地帯にある国のため山がなく，粗骨材にレンガを破砕したものを使用するケースが多々ある。産業副産物の有効利用と建設材料の確保およびコストの問題から再生骨材の利用が期待されていると思われる。また，2 年後に同様のテーマでの国際会議の開催を予定しており，協力を依頼された。

前日の 12 月 13 日にはセメント工場を訪問した。製造ライン (ミル) および管理方法は日本と同様であると推察された。ただし，クリンカーやスラグ，フライアッシュなどの混和材は輸入に頼っており，自国のセメント生産は難しいようである。これは，セメント原料となる石灰岩がないためであろう。また，セメントは，スラグ，フライアッシュ，石灰石微粉を多く混入したものが主流であった。

バングラデシュは人口密度の高い国として有名であるが，ダッカ市内は人にあふれ，主要道路は交通渋滞が慢性化している。また，地方の道路整備はまだまで，移動に多くの時間を要した。道路やその他交通網の整備が急務と思われた。また，近年，頻りに地震が発生しているようで，現地技術者の間では耐震への関心が高まりつつあるとのことであった。

4 日間のバングラデシュ滞在であったが，有意義な渡航であった。



オープニングセッション



会場の様子



発表の様子（山路 TL）



発表の様子（審良）



ダッカの街並み